

やっています!

# カプセル内視鏡検査

カプセル内視鏡検査は、鎮痙剤や鎮静剤を必要としません。腸液が貯留したままの消化管内腔を、蠕動運動に伴って進んでいくため、日常生活をしている状態で撮影がされます。またほとんど体に負担のない検査なので、繰り返し行うこともできます。カプセル内視鏡の画像は8倍の拡大画像であり、小腸の絨毛の構造をかなり明瞭に確認することができます。なおカプセル内視鏡は腸管内を前向きに進んでゆくように、重心が前方、つまりレンズ側に位置していますが、検査中後ろ向きに進む場合も少なくありません。その場合でも撮影された画像の診断に支障はありません。

## 小腸カプセル内視鏡が適用される症状

○原因不明の消化管出血（黒色便、血便、原因不明の貧血、繰り返す便潜血反応陽性）

従来の検査法である胃内視鏡検査や大腸内視鏡検査を行っても

出血の原因がわからない原因不明の消化管出血の場合が適応となる

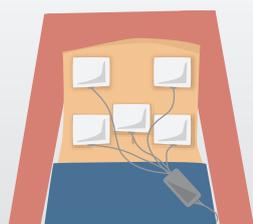
○原因不明の腹痛、下痢などで小腸疾患が疑われる場合

○食道、胃、十二指腸、大腸、直腸には何も問題ないが、黒色便が出る

○原因不明の貧血など



## 検査の流れ



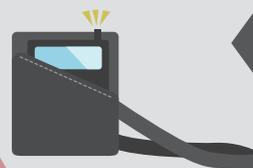
センサを貼る



記録装置取り付け



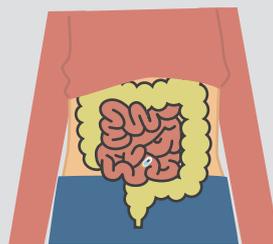
カプセル内視鏡を受け取る



装置返却で検査終了



検査開始から数時間後に接種可能



検査中



カプセル内視鏡を嚥下する